❺学生の活動実態

学生の就職活動の開始時期、活動量の実態は?

「プレエントリー」「説明会」「面接」など活動量は減少

19年卒の学生は、どのような就職活動をしたのだろうか。

まず、活動のスケジュールを各就職活動プロセスの開始時期(グラフ❶)から見ると、最も多かった時期は、「情報収集」が「2017年8月以前」、「個別企業の説明会(対面)」については「2018年3月」となった。「内定取得時期(最初)」については、「2018年5月」が最も多かった。

18年卒の開始時期と比べると、「情報収集」は「卒業年次前年の8月以前」が増え、「卒業年次前年3月」に関しては減少。「内定取得時期(最初)」に関しては、「卒業年次前年2月」～「卒業年次5月」が増加し、「卒業年次6月」～「卒業年次7月」が減少していることから、18年卒よりも活動開始が早まり、内定取得の時期も早くなっていることが見てとれる。

次に、就職活動プロセスごとの活動実施率(P21・表❷)を見ると、全体的に実施率が減少しており、特に「プレエントリー」は2018年卒と比べて7.0ポイント減という結果に。平均社数も8.46社の減少となった。

2017年卒からの3年間で比較すると、「プレエントリー」「個別企業の説明会・セミナー(対面)」「面接などの対面の選考」などは実施率、実施社数ともに年々減少傾向が見られ、学生の活動量が減っていることを示した(P21・グラフ❸)。一方、「インターンシップ」は参加率(55.9%)、参加社数(平均4.69社)ともに増加した(P21・表❷)。

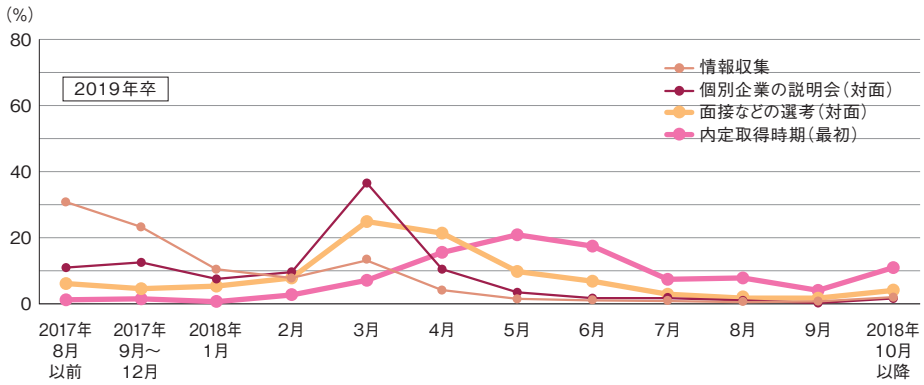
就職活動にかかった金額(税込)は、平均で8万8825円、属性別では理系の大学院生が最も高額で、12万677円となった。(P21・表❹)。

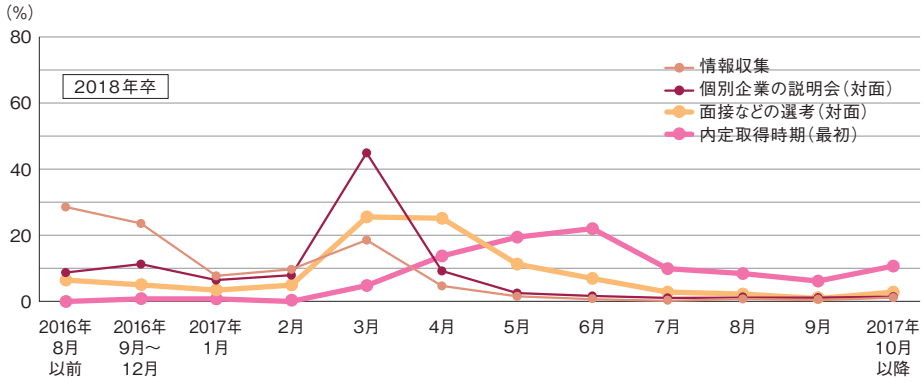
続いて、就職活動にかかった時間では、学業と就職活動、プライベートに対する時間配分で見ると、3月では半分以上の時間を就職活動に割いているのに対して、6月では約3割ほどに減少(p21・グラフ❺)。各プロセスの開始時期が早まり、活動時間のピークも早い時期に迎えていることがわかった。

学生 情報収集は17年8月以前、個別説明会と面接は18年3月、最初の内定は18年5月がピーク

❶ 就職活動プロセスごとの開始時期

※全体／それぞれ実数回答





19年卒では、「情報収集」は「2017年8月以前」がピーク。「個別企業の説明会(対面)」は「2018年3月」が最多で、グラフにはないが、「プレエントリー」「合同説明会・セミナー(大学)」「合同説明会・セミナー(大学以外)」も同様。「面接などの選考(対面)」は「2018年3月」が25.4%と最多で、「2018年6月」は7.0%に。グラフにはないが、「エントリーシートなどの提出」「適性検査や筆記試験の受検」も同様に3月が最多。「内定取得時期(最初)」は、「2018年5月」が最多で、「2018年6月」が続いた。

18年卒との比較では、「情報収集」「個別企業の説明会(対面)」は卒業年次前年の8月以前が2ポイント強増え、卒業年次前年3月が減少。「内定取得時期(最初)」に関しては、卒業年次前年2月～卒業年次5月が増え、卒業年次6～7月が減った。

学生 OB・OG訪問とリクルーターとの接触を除く各活動の実施率は、18年卒よりも減少

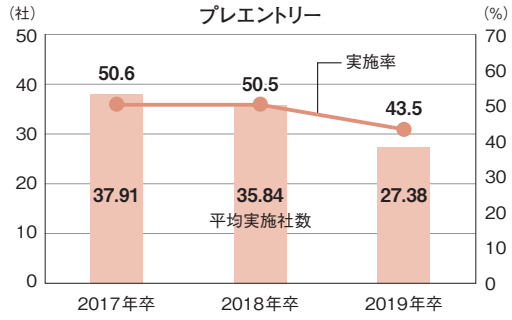
❷ 就職活動プロセスごとの実施状況 ※実施率：学生全体／それぞれ単一回答、 平均数の対象：各プロセスを実施した学生／実数回答

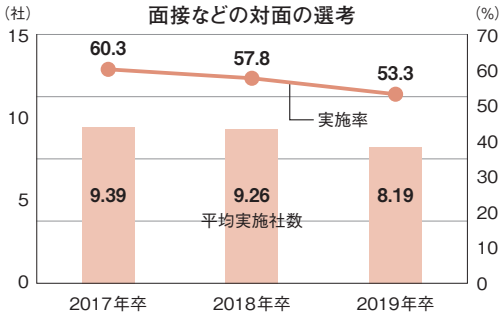
		実施率（%）		平均数（実施者ベース）					
	N= 今回／前回	2030	1825	2019 年卒			2018 年卒		
就職に関する情報を収集する		77.2	(-4.8)						
OB・OGなど社会人の先輩を訪問する		22.1	(0.6)	N=449	2.44	社	N=392	2.86	社
					3.74	人		4.65	人
リクルーターと接触する		26.5	(0.6)	N=539	3.63	社	N=472	3.16	社
					5.36	人		5.03	人
プレエントリー（採用情報・資料の請求、企業への個人情報提供）をする		43.5	(-7.0)	N=883	27.38	社	N=921	35.84	社
大学で開催される合同説明会・セミナーに参加する		44.0	(-4.8)	N=893	4.15	回	N=891	4.58	回
大学以外で開催される合同説明会・セミナーに参加する		39.6	(-6.5)	N=803	5.02	回	N=841	5.01	回
個別企業の説明会・セミナー	対面（社内、会場など）で開催されるものに参加する	35.5	(-6.8)	N=721	12.83	社	N=773	14.29	社
	Ｗｅｂ上で開催されるものに参加する	20.6	(-3.3)	N=419	4.47	社	N=435	4.80	社
エントリーシートなどの書類を提出する		54.5	(-6.2)	N=1107	13.46	社	N=1108	15.82	社
適性検査・筆記試験を受ける		53.1	(-6.6)	N=1078	8.93	社	N=1090	10.76	社
面接など対面での選考を受ける		53.3	(-4.5)	N=1082	8.19	社	N=1055	9.26	社
内々定・内定を取得する		83.8	(-0.7)	N=1701	2.36	社	N=1542	2.54	社
参考）インターンシップへの参加		55.9	(0.7)	N=1134	4.69	社	N=1007	3.30	社

「OB・OGなど社会人の先輩を訪問する」「リクルーターと接触する」を除くすべての実施率が減少。「プレエントリー」「個別企業の説明会・セミナー（対面）に参加する」「大学以外で開催される合同説明会・セミナーに参加する」などでは7ポイント前後の減少に。

学生 プレエントリー、対面の選考（面接など）の実施率・実施社数は2年連続で減少

❸ プロセスごとの実施状況 ※実施率：学生全体／それぞれ単一回答、平均数の対象：各プロセスを実施した学生／実数回答





プレエントリーの実施率は、17年卒の50.6%から2年で43.5%に。実施社数は約10社減少した。面接などの対面の選考も同様に、実施率60.3%が53.3%に減り、実施社数は約1社減少という結果に。

学生 活動費用は平均約8.8万円。就職活動に割いた時間の配分は6月より3月が多かった

❹ 就職活動にかかった費用の金額（税込）

※就職志望・就職活動実施者／実数回答

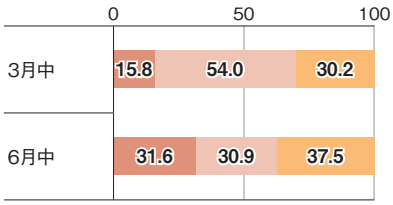
全体		8 万 8825 円
大学生	文系	8 万 8259 円
	理系	7 万 6889 円
大学院生	文系	7 万 6334 円
	理系	12 万 0677 円

（大学生・大学院生の就職状況調査、2019年卒）

高い順に見ると、理系の大学院生→文系の大学生→理系の大学生→文系の大学院生となった。

❺ 「学業」「就職活動」「プライベート」の時間の割合

※就職志望者／実数回答



（2019年卒学生 就職プロセス調査 中間まとめ）

2018年3月には、半分以上の時間を費やしていた「就職活動」が、2018年6月には約3割に。その分、「学業」が倍近くのシェアに増え、6月は「プライベート」のシェアも増えた。

❺学生の活動実態

入社予定企業への納得度別に見た情報収集項目や手段は?

納得度は年々低下。情報収集手段や内容が影響

就職活動全体を振り返った上での入社予定企業・組織等への納得度を見ると、「納得している」に対して「あてはまる」「どちらかというとあてはまる」と答えた「あてはまる・計」(以後、「納得しているグループ」とする)は67.4%に達した。18年卒から6.5ポイントの減少、17年卒からは9.1ポイント減少した(グラフ❶)。就職活動に対する満足度自体は約8割と高く、第1志望群に入社予定の学生の割合が増えたにもかかわらず、納得度は年々減少していることになる。

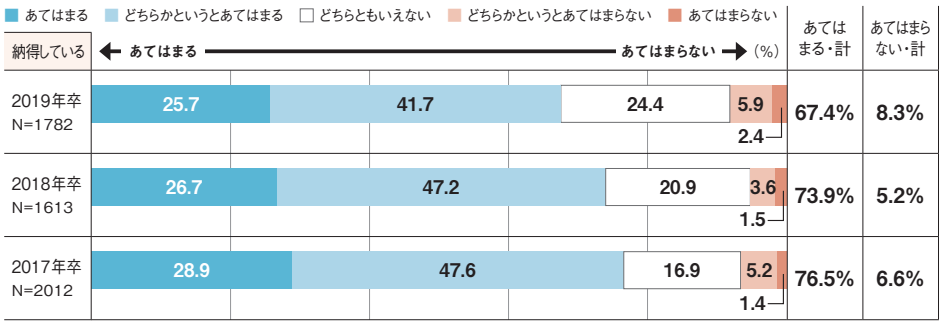
入社予定企業・組織等に対する情報収集の度合いを、「まったくしていない=1」から「十分した=5」の5段階で質問し、「納得しているグループ」と、「納得していないグループ」(「どちらかというとあてはまらない」「あてはまらない」の計)における割合で見ると、「納得しているグループ」は、「4」「5」の合計が78.9%、「納得していないグループ」は49.3%(グラフ❷)。入社予定先の情報収集を十分に行うことが、納得度の高さにつながると見ることができる。

入社予定企業・組織等に対して入社後を見据え積極的に情報収集した項目を「納得しているグループ」「納得していないグループ」で比べたところ、全項目において「納得したグループ」が上回る結果に。特に「会社の将来性」(グループ間の差27.0ポイント)、「給与・年収」(同25.7ポイント)、「仕事内容」(同21.5ポイント)、「勤務地」(20.1ポイント)で差が開いた(P23・グラフ❸)。

インターンシップの参加率で見ると、「納得しているグループ」の参加率64.3%に対して、「納得していないグループ」は42.5%と差が開いた。情報収集手段として「個別の企業・各種団体等の説明会・セミナー」を活用した割合は、「納得しているグループ」39.7%に対して、「納得していないグループ」は26.0%となった。「個別の企業・各種団体等のホームページ」では、「納得しているグループ」83.3%に対し、「納得していないグループ」が72.9%と差がついた(P23・表❹)。

学生 約3分の2が、就職活動全体を振り返った上で入社先に納得している

❶ 入社予定企業・組織等へ就職することへの「納得している」度合い ※就職先確定者/単一回答

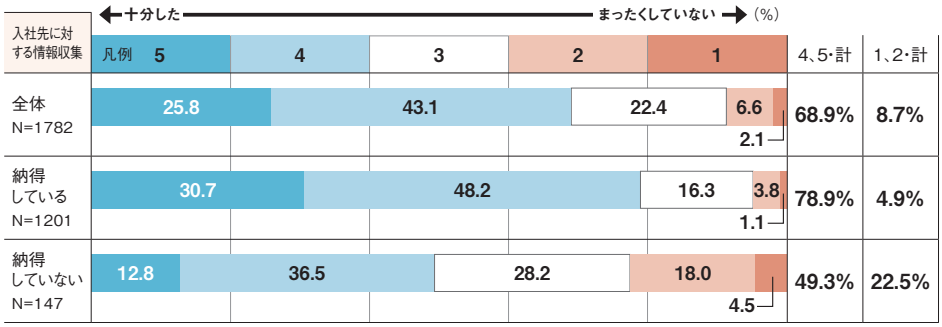


「納得している」に「あてはまる」「どちらかというとあてはまる」と答えた「あてはまる・計」は年々減少。19年卒を属性別に見ると、「文系×男性」の「あてはまる・計」が最も低く、60.6%となり、18年卒から11.4ポイント減少した。

学生 入社先に関する十分な情報収集が納得度の高さにつながっている

❷ 入社予定企業・組織等に対する情報収集度合い(5段階) ※就職先確定者/単一回答

就職活動を振り返り、入社予定企業・組織等への就職に「納得している」にあてはまるか否かの回答にて集計

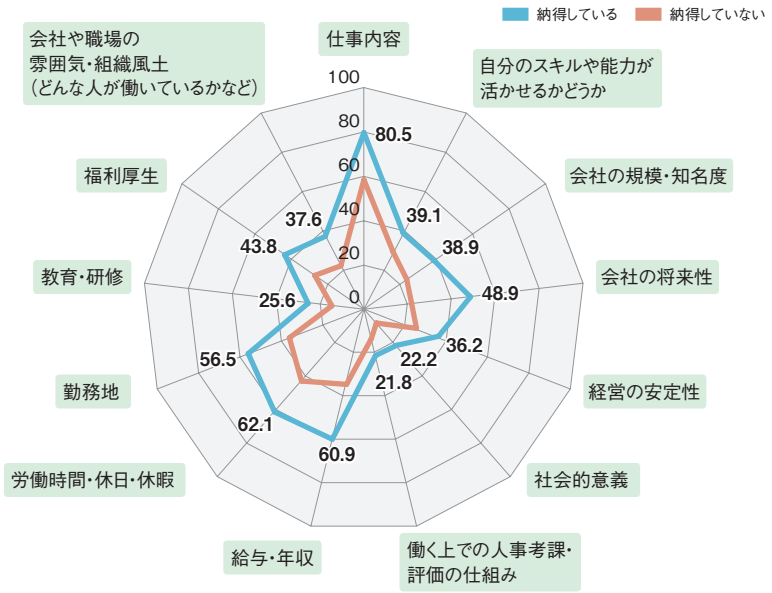


「納得しているグループ」の「4」「5」合計78.9%に対して、「納得していないグループ」は同49.3%とその差は29.6ポイント。「1」「2」の合計の差は17.6ポイントとなった。

学生 会社の将来性や給与面、仕事内容についての情報収集が納得度に影響

❸ 入社後を見据え情報収集した項目

※就職先確定者／複数回答、就職活動を振り返り、入社予定企業・組織等への就職に対して「納得している」にあてはまるか否かの回答にて集計



納得度の違いによって差が開いたのは、「会社の将来性」「給与・年収」「仕事内容」「勤務地」。差が小さかったのは、「働く上での人事考課・評価の仕組み」「自分のスキルや能力が活かせるかどうか」だったが、それでも8～10ポイントの差があった。

学生 インターンシップ、説明会への参加率、ホームページや口コミサイトの活用率などに関係が見える

❹ 入社予定企業・組織などへの納得度別に見たインターンシップの参加率および平均参加社数、情報収集手段の実施率

※参加率：学生全／単一回答　実施率：学生全体／複数回答　就職活動を振り返り、入社予定企業・組織等への就職に「納得している」にあてはまるか否かの回答にて集計、差が大きい項目を抜粋（%）

		納得している	納得していない	納得している－納得していない
インターンシップ	参加率	64.3 %	42.5 %	21.8 ポイント
	参加社数	4.75 社	4.19 社	0.56 社
		（社）	（社）	（ポイント）
個別の企業・各種団体等の説明会・セミナー	実施率	39.7	26.0	13.7
個別の企業・各種団体等のホームページ		83.3	72.9	10.4
学生同士のコミュニティサイト（口コミサイト、みんなの就職活動日記等）		26.6	17.5	9.1
就職情報サイト、就職情報アプリ（リクナビ、マイナビ 等）		49.6	43.2	6.4
OB・OGなど社会人の先輩から得られる情報		18.1	12.5	5.6
リクルーターから得られる情報		14.3	9.2	5.1
IR情報・経営情報（有価証券報告書など）		18.4	14.0	4.4
就職情報企業が主催する合同企業説明会・セミナー		31.5	27.4	4.1
就職情報誌		18.7	14.7	4.0
大学が主催する合同企業説明会・セミナー		32.9	30.7	2.2

「納得しているグループ」のインターンシップ参加社数4.75社は、「納得していないグループ」4.19社と0.56社差。活用した情報収集手段で差が大きかったのは「個別の企業・各種団体等の説明会・セミナー」「個別の企業・各種団体等のホームページ」「学生同士のコミュニティサイト」となった。

熱心な情報収集が納得につながった

●IT関連会社内定／理学部

合同説明会で企業理念に共感したIT企業を志望して、バイリンガル人材向けの海外での就活イベントに参加したときは、事前にその企業の内定者に会うなどして情報を収集。3年生の12月には内定が出ましたが、その後も、同期となる人たちの顔ぶれを見たくて、インターンシップの様子を見せてもらいました。ビデオチャットを利用した社員との面談を通じて、会社の雰囲気を見極めたことで、十分、納得した上で入社できそうです。

就業規則のチェックが甘かった

●マスコミ内定／文学系大学院

将来、フリーランスとして独立したいという希望があり、その足がかりとなるスキルを身につけられるという理由から入社を決めました。内定後、社員と内定者の食事会があったのですが、そのとき社員の方から、副業禁止と聞きました。独立を視野にいろいろな活動をしようと考えていたので、ショックでした。説明会でわざわざ教えてもらえるような事柄ではないので、自分で調べるべきだったと悔やんでいます。

限定した範囲の企業選びに後悔

●精密機器メーカー内定／人文学部

大学と同じ県内の大手企業に入社できることになり、とても満足しているのですが、できればもう少し情報を幅広く集めればよかった気がします。県内に限定せずに、東京が本社の大手企業や、実家に近い地元企業なども含めて検討しておけば、多くの選択肢の中からこの会社を選んだという納得感が得られたように思います。就活を始めるときに、あまり落とされたくないという気持ちがあったため、慎重に進めすぎたのかも知れません。